

せとうち地域とともに「実践型せとうち魅力発見大作戦」

#せとうち魅力発見
#地域資源活用
#実践型学習



明石海峡大橋
高速道路の
下部を歩いて
約1km先の主塔へ
(足元の綱目から
眼下に海が見えて
足がすくむ。)



明石海峡大橋
塔頂!

明石海峡大橋塔頂
海面上約300m 360度の大パノラマ

DATA

● 主な連携先・メンバー

本州四国連絡高速道路株式会社 地域連携部・坂出管理センター
丸亀市(さぬき広島)/坂出市(与島)/与島自治会(与島)/一般社団法人坂出市観光協会(与島鍋島灯台)/JBハイウェイサービス株式会社/瀬戸大橋総合開発株式会社(与島PA)/関西大学商学部 館野ゼミ

● 活動地域

明石海峡大橋や瀬戸大橋、しまなみ海道など本州四国連絡橋でつながる徳島、香川、高知、愛媛及び兵庫、岡山、広島及びその周辺地域(観光拠点・公共施設・地域資源周辺)

● 活動期間

2023年度～継続中

● 活動資金

概ね連携企業が負担



「さぬき広島」の夕日
(日本遺産 せとうち石の島)



いざ「さぬき広島」へ
(日本遺産 せとうち石の島)
丸亀港→さぬき広島へ

目的

関大生の柔軟な発想と実践力を生かし、瀬戸内地域に脈々と受け継がれてきた資源や営みを改めて見つめ直し、昔から伝わる祭事をはじめとする参加型コンテンツや、地産地消につながる素材・価値を掘り起こすことで、地域に新たな活力をもたらすことを目的とする。学生が地域に入り、地域資源や魅力を再発見し、本州一四国間の交流人口の拡大につながる地域づくりを目指す。

活動内容

瀬戸内地域の魅力を「体験」を通じて伝える観光コンテンツの創出に取り組んでいる。本事業に先立ち、学生は事業理解を深めるため、明石海峡大橋の見学・塔頂体験を通して、本州四国連絡橋の役割や構造、観光資源としての価値について学習した。橋を「渡る存在」ではなく、「地域をつなぐ資産」として捉える視点を養うことを目的としている。

また、瀬戸内の地域を実際に訪れ、さぬき広島で開催されている「いろは石ウォーク」や「百々手まつり」など、担い手不足により継続が難しくなっている地域イベントにも参加した。学生は来訪者として参加するだけでなく、地域の方々との対話や運営の様子を通して、地域行事が果たす役割や課題を体感

活動の成果

- ▶ 実施を通じた来訪者行動の把握
実際の参加者行動を通じ、来訪者の動線や滞在時間、企画提案したイベントへの参加判断のポイントを具体的に把握
- ▶ 企画難易度と参加ハードルの検証
クイズ形式や周遊距離の設定により、企画難易度調整の重要性を明確化
- ▶ ターゲット設定の課題の可視化
想定した来訪者層と実際の参加者に乖離が見られ、ターゲット設定や事前想定の精度向上など今後の課題の整理
- ▶ 動線・案内表示の改善点の抽出
チェックポイントや帰路誘導の課題が顕在化し、案内表示や動線設計の改善について具体的に把握
- ▶ 次期企画に向けた実践的知見の蓄積
小規模ながら実地開催による、広報、時間設定、範囲設定など実践的な知見を蓄積

連携先からの一言

関大生の皆さんは、地域を「題材」として扱うのではなく、自分たちが関わる当事者として真剣に向き合ってくれました。現場に足を運び、地域の声に耳を傾け、思うように進まない場面でも試行錯誤を重ねながら、一歩ずつ前に進む姿が印象に残っています。その過程で生まれた率直な気づきや提案は、私たちにとっても新鮮で、これまでの見方や考え方を問い直すきっかけとなりました。学生と企業が同じ目線で並走しながらつくり上げてきたこの取り組みは、学びと実践が確かにつながった実感のあるプロジェクトです。

(本州四国連絡高速道路株式会社 地域連携部長 村岡 良文氏)

連携に至る経緯

これまで、本州四国連絡高速道路株式会社では、地域課題の解決や観光振興の活動を続けてこられたが、瀬戸内地域では、観光客の過ごし方が短時間・多様化し、気軽に参加できるコンテンツの重要性が高まっている。一方で、地域イベントは、担い手不足や高齢化により継続が難しくなっている。そこで、若者視点や専門知識を活かして本州一四国間の交流人口の拡大を目的に、当ゼミと学生参画型プロジェクトを立ち上げ、学生と地域が並走する形で取り組みを開始した。

し理解した。

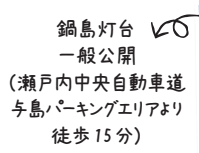
これらの現地での学びを踏まえ、与島PAを舞台とした「瀬戸内チャレンジエスト」を企画・実施し、企画立案から当日運営、振り返りまでを学生主体で行った。さらに、実施結果をもとに課題を整理し、家族連れが短時間で気軽に参加できる「せとうちの魅力すごろく」構想へと発展させている。現在は、橋パズル体験、モザイクアート、タイプ診断、アップサイクル素材を活用したものづくり体験など、地域資源と学びを組み合わせた具体的な体験型コンテンツの実装を見据え、検討を進めている。



提案したイベント
「瀬戸内
チャレンジエスト
in 与島」
与島 SAにて



第17回
「さぬき広島
いろは石ウォーク」
に参加



鍋島灯台
一般公開
(瀬戸内中央自動車道
与島PAパーキングエリアより
徒歩15分)



「橋の科学館」
明石海峡大橋が
開通するまでの
「つくる」と、
これからの「まもる」の
技術を伝える
ミュージアムにて

今後の課題・目標・展開の可能性

- ▶ 学生の関わりを一過性にせず、祭事・体験・地産地消を継続的に磨き直す仕組みづくり
- ▶ 地域イベントや資源の「魅力の見せ方」を整理し、立ち寄り型・短時間参加モデルとして展開
- ▶ 瀬戸内各地域での実践を積み重ね、本州一四国間の交流人口の拡大につながる取り組みへ横展開

商学部 教授 館野 仁子 Ameno Hiroko



専門分野は、物流・ロジスティクス政策。
キャンパス・教室内、教科書の中だけでは学び取れないことがたくさんある。関大生には、五感を研ぎ澄まして、社会と深く関わって幅広いものを見方を養ってほしいと思う。

